

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2673000192		
法人名	特定非営利活動法人 エイチアンドイーグループ		
事業所名	グループホーム あぐら		
所在地	京都府 長岡京市 東和苑 1-4		
自己評価作成日	平成24年2月20日	評価結果市町村受理日	平成24年7月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・廉価な価格での利用料金の設定</li> <li>・生活保護世帯を含めた困難事例の利用者の受け入れ</li> <li>・長期にわたるアフターフォロー</li> </ul>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2673000192&amp;SCD=320&amp;PCD=26">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2673000192&amp;SCD=320&amp;PCD=26</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは、地域の中の一軒の家を改築し開所されたホームで、住宅地の中に位置しています。木のぬくもりを活かしながらスロープや手すりを取り付け、安全に暮らせるように配慮し、又、2階への移動は昇降機を取り付ける等の工夫をしています。リビングに備え付けられた暖炉の側で利用者一人ひとりが暖をとりゆったりと過しています。職員はホームの家庭的な環境と雰囲気をお大切にしたいと考え、開所時に職員と一緒に考えた理念を常に意識し、地域の中でその人らしく穏やかに暮らしたいと願いながら利用者の側に寄り添っています。利用者が重度化しても、出来る限りの残存機能を活かしたケアを心がけています。又、行政へ積極的に出向きホームの現状を伝え、行政とホームの双方が相談をしながら信頼関係が築かれています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成24年3月21日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・そのように努力している	設立時に掲げた理念は、「平安」と「やすらぎ」そして「あなたらしさ」と共に掲げています。職員は常に理念を意識し日々のケアの中で実践し振り返っています。又、地域の中でその人らしく暮らし続けられることを大切に支援しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・努力中であるが、まだ成果は出ていないように思われる	自治会に加入しています。地藏盆に参加したり近所を散歩中には挨拶を交わしています。民生委員の訪問や地域のボランティアの受け入れを行う等、地域との交流を大切にしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・まだ生かされていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・長期中断中であつたが、今年度最初の会議を開催予定である	運営推進会議には自治会、民生委員、地域包括支援センター職員、行政の参加の下で開催しています。運営推進会議を1年間開催していなかった期間中のホームの様子を報告し、意見や要望を聞いています。洗面台の設備についてや体操をして欲しい等の意見が出され、改善し運営に反映させるように努めています。今後は2ヶ月に1回開催する予定です。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・可能な限り行政機関に直接出向き、コミュニケーションを図っている	市の担当者とは連絡を密に取り、困難事例についての相談等担当者と積極的に関わる事で良好な関係が築かれています。また市が主催する認知症の方の徘徊搜索訓練等にも参加したいと考えています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・現在身体拘束はなく、今後ともその方向で努力する。	玄関は施錠はせず、外に出たい利用者の様子があれば出来る限り一緒に外出するように心掛けています。職員会議の中で事例を挙げて身体拘束をしないケアの取り組みについて話し合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	・そのように努力している		

グループホームあぐら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・現在未実施である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・説明は行っているが理解を得られていない面もあり、さらに一層の努力が必要と思われる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議でも発言でき、行政機関の担当者を紹介する等している	面会時に意見や要望を聞くようにしています。遠方で面会に来れない方や、様子を伝える時は電話で意見や要望を聞くように努めています。	運営推進会議で意見を聞かれています。今後、家族に手紙や写真で様子を伝えながら意見や要望を聞く機会を考えられてはいかがでしょうか
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議にて行っている	月1回、全職員の参加の下で職員会議を開いています。職員からはシフトについてや業務内容の確認等の意見や提案が出され運営に活かしています。また個人面談の中でも意見や提案を聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・そのように努力している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・研修等を積極的に受けよう努力している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・様々な連絡会があるが、参加できてないことも多い		

グループホームあぐら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・そのように努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・そのように努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・そのように努力している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・そのように努力しているが、促しても反応が薄い場合が多々あり、課題が多い		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・そのように努力している	近所の知人の来訪や以前から関わりのあった民生委員の訪問があります。また買い物先や公園で出会う等、これまでの馴染みの人や関係が継続できるように支援しています。家族の協力の下、正月に帰省された利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・そのように努力している		

グループホームあぐら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・そのように努力している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・そのように努力している	利用申込時に生活歴等を把握し、入居後は利用者に関わる中で得た気づきや情報を会議の中で話し合い、職員間で利用者の思いを共有するように努めています。困難な時は日々の関わりの中で表情や仕草から汲み取ったり家族に聞く等、一人ひとりの思いや意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・面接時にヒアリングを行い、入所後に生かしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・そのように努力している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・そのように努力している	計画作成担当者が中心となり、家族や医師の意見を聞きサービス担当者会議を開催して介護計画を作成しています。6ヶ月に1回モニタリングを行い6ヶ月毎に見直しています。退院後や変化が見られた時は随時の見直しをしています。	今後、さらに介護計画に添って行われている支援を日々の記録の中に状況がわかるような工夫をされてはどうか
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・そのように努力している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・そのように努力している		

グループホームあぐら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域資源の利用はまだ少なく、課題が多い		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・担当医とは夜間でも連絡が取れ、事業所側も支援すべく努力している	入居時に今までのかかりつけ医の継続が出来ることを説明しています。かかりつけ医の往診時に情報提供をしています。歯科受診は家族が対応したり、状況に応じ職員も対応し、受診の結果は家族と連絡を取り合っています。月に2回、協力医による往診があり24時間連絡が取れ相談できる体制が築かれています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・看護職はいない		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・そのように援助している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる		入居時に重度化した場合について、本人や家族にホームで対応できることを説明をしています。医療行為や車椅子での対応が必要になった時は、早い段階から本人と家族と話し合い、対応を検討し支援しています。ホームでの対応が困難なときには、他施設や病院の紹介をする等の支援をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・そのように努力予定であるが、今のところ全員が十分なスキルがあるとは言えない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・緊急対応マニュアルを整備している	年に2回の昼夜を想定した避難訓練を行っています。1回は消防署の指導の下で避難場所の確認や避難誘導の方法、初期消火の訓練をしています。ホームに非常ベルが設置され、地域からの応援体制が取られています。今後は災害に備え非常食等の備蓄の整備をしたいと考えています。	

グループホームあぐら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・そのように努力している	利用者の尊厳を大切に敬語で対応することを基本としています。信頼関係が出来、利用者の生活歴を把握した上でその時々利用者の様子に合わせた言葉かけで対応する事もあります。不適切な言動や対応が見られた時はその都度注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・そのように努力している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・そのように努力している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・そのように努力している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・そのように努力している	利用者の食べたい物を聞き献立を決めています。食べたい希望の多い寿司は、月1回外注を取り入れています。利用者はたまねぎの皮をむいたり、下膳をする等、その日に出来る事を行っています。重度化により外食の機会が減り、今後リビングを喫茶店風にして雰囲気味わって頂く取り組みを予定しています。また季節の野菜を食卓にのせる等、食事が楽しみとなるように支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・そのように努力している。水分摂取表や簡単なカロリー計算等も導入している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・朝晩の口腔ケアを実施し、入れ歯洗浄剤での処理も併せて行っている		

グループホームあぐら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・そのように努力している	個々の排泄パターンを把握しトイレでの排泄の自立を支援しています。重度化により歩行の不安定な利用者にも2人介助で誘導し、トイレで排泄ができるように支援しています。退院後におむつから紙パンツに変更したり、又、夜中はパットを使用し日中は布パンツで過ごす等、利用者の状況に合わせおむつや紙パンツ、パットの使用を減らすように努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・食事メニューの工夫や投薬などで工夫している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・そのように努力している	午前と午後に入浴できるように準備し、現在は1日おきに入浴してもらっています。また夜間に汚れた時には入浴したり、希望があれば毎日入浴が出来るように支援しています。拒否があるときは声のかけ方を工夫したり、タイミングを見て入浴が出来るように支援しています。又、袖や蓬を使い入浴が楽しみとなる様に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・そのように努力している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・そのように努力している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・現在以前ほどの支援はできていない		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・そのように努力しているが、利用者の状態やスタッフの配置により困難な場合も多い	天気の良い日には、職員が声をかけ個別に近所を散歩したり、玄関先のベンチで外気に触れる等、戸外に出る機会を持つように努めています。正月に帰省したり墓参りに行く等は家族が対応しています。重度化に伴い全員での外出は難しくなっていますが、今後行きたい所に行けるよう個別ケアに取り組みたいと考えています。	



グループホームあぐら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・現在自分で金銭管理をしている利用者はいない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話等自由にできる環境を置いているが、利用する方はほとんどおられない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・そのように努力している	玄関先には季節の野菜が植えられ、リビングの壁には職員と一緒に作ったカレンダーに折り紙で作った雛人形を飾り、季節感や生活感を感じる事ができます。リビングには利用者が集えるソファを置き、暖炉のぬくもりの中で一人ひとりが居心地よく過せる空間となるように工夫をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・そのように努力している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室内には事業所からのものは一切おかず、利用者のものを持ち込んでいただくようにしている	使い慣れた馴染みの物を持ち込んでもらうよう説明しています。和室の布団やテレビ、筆筒、ベット、座布団、カーテン、家族の写真、仏壇等が持ち込まれ、これまでの生活を大切にしたいその人らしい居室で居心地良く暮らせるように工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・そのように努力している		